

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 25 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K08894

研究課題名(和文) 効率的かつ公平な医療資源配分方法の確立に関する基礎的研究

研究課題名(英文) Basic research for the development of the way how to allocate healthcare resources more efficiently and fairly

研究代表者

下妻 晃二郎 (Shimozuma, Kojiro)

立命館大学・生命科学部・教授

研究者番号：00248254

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：1. QOLスコアを効用値に変換するmappingのガイダンス2つ(MAPS Reporting Statement, ISPOR Task Force Report)を翻訳した。前立腺癌対象のQOLスコアと効用値の同時測定結果を分析した。がん臨床試験内で効用値測定の有用性を検証した。

2. 多基準意思決定分析(MCDA)の応用課題抽出のため、系統的レビューによる基準の選択と、一般人と医療専門職対象のweb調査を施行、命に係る疾患と係らない疾患による優先度と相対的重みの相違、基準のカテゴリーと得られるスコアの線形関係と等間隔性を明らかにした。

3. 生産性損失とデータソースの研究は資料収集を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

医療技術の評価において、従来の医療現場の有効性と安全性のエビデンスのみを重視する時代は終わり、効率性や平等性、経済性を加味した、社会的な価値の評価を積極的に行い、それに基づいて、医療の資源配分の意思決定を行う考え方が世界中に広がりつつある。しかるに、日本はその分野の研究と政策応用で後れを取っている。本研究の成果は、特に医療経済評価におけるQOL評価が有する課題や、医療資源配分の意思決定に用いられる多角的な価値基準を統合する方法の開発や進歩に大きく貢献するものであり、学術的、社会的意義は大きい。

研究成果の概要(英文)：1. We translated and introduce the two major mapping guidance (MAPS Reporting Statement, ISPOR Task Force Report). The results of simultaneously measured scores/values by profile-based and preference-based instruments for prostate cancer patients were analyzed. We examined the utilization of assessing utility values in a cancer clinical trial.

2. To reveal the application-related issues for multi-criteria decision analysis (MCDA), we firstly identified important criteria by systematic review and secondly underwent some web-based surveys using the criteria for lay people and healthcare professionals. The surveys revealed the difference of priority and weight between for life-threatening disease and for non-life-threatening disease and that the linearity and distance's equality between criteria-related categories and gained scores.

3. We gathered the reference information about the issue of productivity loss and data sources.

研究分野：医療政策・管理学

キーワード：医療技術評価 医療資源配分 医療経済評価 資源配分の倫理 健康アウトカム評価 臨床試験 費用対効果 保険償還

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 背景 総論

近年、欧米のみならず日本でも経済成長の低迷と医療費の高騰に悩んでいる。医療費高騰の原因は少子高齢化と同時に新規医療技術の開発があげられる(「医療経済的側面も含めた技術の評価」第1回今後のがん研究のあり方に関する有識者会議 2013)。医療の効率化を図るために、欧州諸国を中心に HTA 機関が設立され、費用対効果に基づく医療資源配分の政策応用(償還の可否や価格調整)が広く行われている。日本でも H28 年度から一部の医療技術に費用対効果の政策応用が始まる予定である(厚生労働省、中央社会保険医療協議会、費用対効果専門部会資料)。

HTA の政策応用の一般的なプロセスは、(1)Assessment(効率性の技術評価) (2)Appraisal (公平性を加味した総合評価) (3)Decision(意思決定)である(厚生労働省 費用対効果の技術的課題のガイドライン 2012)。(1)に関する基礎的検討は、科研基盤 B「公正な医療資源配分方法の確立」班(下妻が研究代表者)(H23-26)(医療経済評価に関する諸問題～理論的・倫理的側面からの検討、薬剤疫学 2012)において、また政策応用の検討は厚生労働省科研「医療経済評価の制度への応用に向けた標準的な評価手法とデータに関する研究」班(下妻は研究分担者)で数年来行ってきた(医療経済評価研究における分析手法に関するガイドライン、保健医療科学 2013)。しかし残された課題は少なくない。

例えば(1)において、QOL 値(以下効用値)の意義と信頼性の向上、生産性損失の算定の標準化、モデル研究に用いるデータソースによる結果の違いと使い分け、などである。一方(2)(3)については、日本では従来本格的な研究が極めて少なく、倫理・社会的調査結果に基づいた、しかも透明性が保たれた意思決定システムの構築が急務である。本研究で行う各課題の学術的背景を次に述べる。

(2) 背景 各論

課題 1: 費用対効果分析に用いる QOL 値(効用値)の理論的意義の明確化と信頼性向上

費用対効果に基づく資源配分の理論的根拠は von Neumann と Morgenstern の期待効用理論にある。効果の指標に QALY(Quality-adjusted life year)(効用値で調整した生存年)が用いられるが、「健康効用」を医療資源配分に用いることの正当性の議論はあまり行われていない。例えば Sen らの提唱する基本的潜在能力(basic capability)(正義の経済哲学 東洋経済新報社 2002)を効用の指標に応用するなど他のアプローチも比較検討し、既存の方法の理論的意義を明確化する必要がある。さらに、従来臨床試験で汎用されているプロファイル型 QOL 尺度や PRO(Patient-reported outcomes)尺度で得られた値を効用値に変換するマッピング方法の標準化が必要である。

課題 2: 生産性損失、特に presenteeism(疾病就業)の評価とコスト算定方法の確立

算定するコストの範囲により医療経済評価の結果は異なってくる。例えば精神疾患や認知症などの慢性疾患では、直接医療費に加えて生産性損失の算定が大事な場合がある(がんの罹患による労働損失の推計・厚生労働科学研究費分担研究報告 2012, QALY and productivity loss: Empirical evidence for “double counting. Value Health 2013)。しかし、生産性損失の中でも特に presenteeism の評価やコストの算定が難しく、方法の標準化が課題である。

課題 3: 費用対効果のモデル分析に使うデータソースによる結果の比較とガイダンスの開発

本来、費用対効果分析は cost-effectiveness analysis なので、real world data を用いて行うべきであるが、新規医療技術のモデル分析においては、治験や臨床試験から得られたエビデンスが専ら用いられてきた。近年、レセプトや電子カルテなどの real world の data base (DB) の整備が急速に進み、H28 年度から政策導入が検討されている医薬品の再評価においては、real world DB を用いた分析が積極的に用いられる可能性が高い。しかし両方法による結果の差異についての研究は殆ど行われていない。それらの研究結果に基づいた使い分けのガイダンスの開発も急がれる。

課題 4: 医療資源配分への多基準意思決定分析(MCDA: Multi-Criteria Decision Analysis)の応用

近年、社会の多様化を反映して、時に相反する価値判断を同時に分析評価に組み入れる必要性が増している。MCDA は前述の(1)~(3)の順次プロセスにおける多様な価値基準を統合し、同時施行できる手法であり(多基準分析の今日的意義と課題 総合都市研究 2003) 公的意識決定過程の効率化や透明化に寄与する可能性が大きい。例えば、イノベーション、公平性、費用対効果、副作用などの基準の統合を試みる例が紹介されている(Toumi M, ISPOR 4th Latin America Conference Educational Symposia, 2013)。日本では未開拓の分野で、組み込む基準の選択と方法、各基準の重みづけ、感度分析など解決すべき課題が多い。政策応用ができること、HTA から政策意思決定までの期間の短縮が図れる。

2. 研究の目的

(1) 課題 1: QOL 値(効用値)の理論的意義の明確化と信頼性向上

基本的潜在能力の定量的測定と資源配分応用に関する文献を網羅的にまとめ、健康効用を用いた方法の意義を明確化する。プロファイル型尺度で測定した QOL スコアから効用値へのマッピング方法別の利点・欠点を、DB を用いた分析と文献的考察から明らかにする。

(2) 課題 2: Presenteeism(疾病就業)の評価とコスト算定方法の確立

Presenteeism の評価とコスト算定を目的とした尺度と研究の網羅的文献検索により、医療経済評価に使える尺度とその応用の標準化をはかる。

(3) 課題 3: モデル分析に使うデータソースによる結果の比較とガイダンスの開発

「臨床試験」と「real world data」を用いた場合の費用対効果モデル分析結果の相違についての文献検索を行い、その結果の分析に基づき使い分けのガイダンスを開発する。

(4) 課題 4: 医療資源配分への多基準意思決定分析(MCDA: Multi-Criteria Decision Analysis)の応用

日本で意思決定に必要な評価項目(基準)を、一般国民、患者、医療専門家を対象とした web や面接調査で明らかにする。さらに疾病や分野別に各基準の重みづけ(weighting)を行い、スコアの統合と感度分析を行う。一連の過程における課題を明らかにし、今後の具体的研究に繋げる。

3. 研究の方法

効率的かつ公平な医療資源配分を可能とするシステムの確立を目指し下記の研究計画を行う。

(1) 課題 1: プロファイル型尺度で測定した QOL スコアから効用値へのマッピング方法について、まず、国際的なマッピング方法に関するガイダンスの翻訳と日本への紹介を行う。次に、日本の乳がんや前立腺癌患者を対象とした臨床研究や臨床試験において、プロファイル型尺度で測定した QOL スコアと選好に基づく尺度で測定した効用値の関連、課題について明らかにする。

(2) 課題 2: 生産性損失測定に関する文献の系統的レビューを通して、presenteeism を含む測定方法とそれに基づくコスト算定方法の標準化と課題(double counting 等)を明らかにする。

(3) 課題 3: 医療経済モデル研究において、臨床試験のエビデンスベースのデータを用いた場合と、real world data を用いた場合の結果の比較研究の系統的レビューをまず行い、相違や特徴を明らかにする。

(4) 課題 4: MCDA の医療資源配分への応用研究の系統的レビューを通して、重要な基準を同定する。次に、日本で扱うべき基準の優先順位や重みの調査、国際的に使われている MCDA モデルを用いた疾患や分野別の MCDA の応用可能性に関する web 調査を行い、課題と実施可能性を明らかにする。

4. 研究成果

(1) 課題 1

プロファイル型 QOL スコアから選好型 QOL 値(効用値)に変換するマッピングの、国際的に使われている主要なガイダンス 2 つ(MAPS Reporting Statement, ISPOR Task Force Report)を翻訳し、一部を日本に紹介した¹⁾。前立腺癌患者を対象にした、プロファイル型尺度として FACT-G, P と選好型尺度である EQ-5D の多施設横断研究を行い、日本における EQ-5D の分布や天井効果の課題、FACT との関連について明らかにした^{2,3)}。乳癌患者の抗癌薬治療に関する臨床試験内における EQ-5D を用いた効用値測定の有用性を検証した⁴⁾。

(2) 課題 2,3

文献的情報収集を行い、今後の研究課題を探索した。

(3) 課題 4

多基準意思決定分析(MCDA)の応用課題抽出のため、系統的レビューを行い、保険償還の意思決定において考慮すべき基準をまとめ、さらに、研究者間の合意を経て 26 個の基準を同定し、次に、これらの基準を用いて、医療用 web パネルを用いた調査を行った。

まず、「命にかかわる疾患(がんなど)(Life-threatening disease)」の治療薬の償還可否に関わる基準の選定と重みづけ調査(一般人、医師、薬剤師、看護師を対象)を行った。各基準の重みを 7 件法で調査した。共通して優先度が高かった 8 つの基準は、「症状緩和」「自己負担額」「費用対効果」「生産性損失」「副作用」「社会的イノベーション」「予算影響」「期待生命予後」であった。次に、同様の web パネルを用いて、8 つの基準に 100 点を割り振る方法で、相対的な重みづけ調査を行った。職種別に要因の優先順位を明らかにし、次に同一対象者に対して、絞り込まれた基準について、相対的重要性を明らかにした。その結果、一般人と医療専門家の間で結果が有意に異なった基準は、「自己負担額」「費用対効果」「副作用」の 3 つであった^{5,6)}。

次に、「直ちに命に係らない疾患(non-life-threatening disease)」の治療薬の償還可否に関わる基準選定と重みづけ調査(一般人、医師、看護師、薬剤師を対象)を行った。各基準の重みを 7 件法で調査した。各職種の上位をカバーする 7 基準として、「自己負担額」「副作用」「症状緩和」「費用対効果」「生産性損失」「生存期間延長」「社会的イノベーション」が明らかになった。次に同一パネルを用いて、前述の 7 つの基準に 100 点を割り振る方法で、相対的重要性を明らかにした。一般人と看護師が「症状緩和」を、医師と薬剤師が「費用対効果」を重視した。この結果は昨年度の命に係る疾患の結果と同様であった⁷⁾。

さらに、国際的な MCDA 研究グループが作成した、EVIDEM 10th Edition の日本語版を開発者の許可を得たうえで開発し、基準の各カテゴリーと、得られるスコアとの間に線形関係を検討した結果すべての基準の平均値の検討で、score の等間隔性(直線性)が確認されたのは 3%以下であった。一方、partial value と調査対象者の性質との関連についての MANOVA を用いた分

析では、すべての基準において、職業と年齢が score の等間隔性と関連していた⁸⁾。

< 引用文献 >

- 1) 白岩健, 船越大, 村澤秀樹, 下妻晃二郎, 斎藤信也, 福田敬: 医療経済評価におけるマッピングと MAPS 声明について. 保健医療科学(2018);67(4):422-426
- 2) Murasawa H, Sugiyama T, Matsuoka Y, Okabe T, Hino A, Tanaka N, Sugimoto M, Oyama M, Fujimoto K, Horie S, Noto S, Shimosuma K: Health utility and health-related quality of life of Japanese prostate cancer patients according to progression status measured using EQ-5D-5L and FACT-P. Qual Life Res (2019);28(9):2383-2391
- 3) Murasawa H, Sugiyama T, Matsuoka Y, Okabe T, Wakumoto Y, Tanaka N, Sugimoto M, Oyama M, Fujimoto K, Horie S, Funagoshi M, Arakawa I, Noto S, Shimosuma K: Factors contributing to the ceiling effect of the EQ-5D-5L: an analysis of patients with prostate cancer judged “no-problems”. Qual Life Res (2020); 29:755-763
- 4) Kawahara T, Shimosuma K, Shiroywa T, Hagiwara Y, Uemura Y, Watanabe T, Taira N, Fukuda T, Ohashi Y, Mukai H: Patient-Reported Outcome Results from the Open-Label Randomized Phase III SELECT BC Trial Evaluating First-Line S-1 Therapy for Metastatic Breast Cancer. Oncology (2018); 94:107-115
- 5) Funagoshi M, Murasawa H, Shimosuma K: Identification of important criteria for drug reimbursement decision-making and their relative importance. ISPOR 20th Annual European Congress (2017)(Glasgow, UK)
- 6) 船越大、村澤秀樹、下妻晃二郎: 薬剤の償還可否に関する評価基準の調査: 一般、医師および薬剤師の選好. QOL/PRO 研究会第 5 回研究学術集会 (2017)(岡山)
- 7) Funagoshi M, Murasawa H, Shiroywa T, Saito S, Shimosuma K: Importance of Criteria for Drug Reimbursement Decision- Making for Non-Life-Threatening Diseases. ISPOR 21th Annual European Congress (2018)(Barcelona, Spain)
- 8) Funagoshi M, Murasawa H, Shiroywa T, Saito S, Shimosuma K: Relationship between partial values and scoring scale for each criterion of the EVIDEM 10th Edition Core Model in Japan. ISPOR 22th Annual European Congress (2019)(Copenhagen, Denmark)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計36件（うち査読付論文 29件 / うち国際共著 10件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 下妻晃二郎	4. 巻 46
2. 論文標題 癌治療とQOL-乳癌	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 癌と化学療法	6. 最初と最後の頁 985-989
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Shiroiwa T, Fukuda T, Shimozuma K	4. 巻 28
2. 論文標題 Psychometric properties of the Japanese version of the EQ-5D-Y by self report and proxy report: reliability and construct validity.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Qual Lif Res	6. 最初と最後の頁 3093 3105
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11136-019-02238-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Murasawa H, Sugiyama T, Matsuoka Y, Okabe T, Wakumoto Y, Tanaka N, Sugimoto M, Oyama M, Fujimoto K, Horie S, Funagoshi M, Arakawa I, Noto S, Shimozuma K	4. 巻 29
2. 論文標題 Factors contributing to the ceiling effect of the EQ 5D 5L: an analysis of patients with prostate cancer judged “no problems”	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Qual Lif Res	6. 最初と最後の頁 755 763
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1007/s11136-019-02316-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Murata T, Shimozuma K, et al	4. 巻 -
2. 論文標題 Response shift-adjusted treatment effect on health-related quality of life in a randomized control trial of taxane versus S-1 for metastatic breast cancer: structural equation modeling.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Value Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤信也、岩垣博巳	4. 巻 28
2. 論文標題 外科的侵襲と漢方-漢方補剤による侵襲反応モジュレーションの可能性-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 漢方と最新治療	6. 最初と最後の頁 280-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Noto S, Shiroiwa T, Kobayashi M, Murata T, Ikeda S, Fukuda T	4. 巻 4
2. 論文標題 Development of a multiplicative, multi-attribute utility function and eight single-attribute utility functions for the Health Utilities Index Mark 3 in Japan.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 J Patient Rep Outcomes	6. 最初と最後の頁 23-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41687-020-00188-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hasegawa M, Komoto S, Shiroiwa T, Fukuda T	4. 巻 23
2. 論文標題 Formal Implementation of Cost-Effectiveness Evaluations in Japan: A Unique Health Technology Assessment System.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Value Health	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1016/j.jval.2019.10.005	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Moriyama Y, Nakamura-Thomas H, Morikawa M, Fukuda T, Batchelder L, Saloniki EC, Malley J	4. 巻 29
2. 論文標題 Development of Japanese utility weights for the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) SCT4.	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Qual Life Res	6. 最初と最後の頁 253-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-019-02287-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura-Thomas H, Morikawa M, Moriyama Y, Shiroya T, Kyougoku M, Razik K, Malley J	4. 巻 17
2. 論文標題 Japanese translation and cross-cultural validation of the Adult Social Care Outcomes Toolkit (ASCOT) in Japanese social service users.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Health Qual Life Outcomes	6. 最初と最後の頁 59-59
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12955-019-1128-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 村澤秀樹、下妻晃二郎	4. 巻 23
2. 論文標題 医療技術評価におけるQOL/PROの活用	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 薬剤疫学	6. 最初と最後の頁 19-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下妻晃二郎	4. 巻 63
2. 論文標題 超高齢社会における高齢者治療の標準化 - HTAベースで考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 薬学図書館	6. 最初と最後の頁 211-215
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kawahara T, Shimoizuma K, Shiroya T, Hagiwara Y, Uemura Y, Watanabe T, Taira N, Fukuda T, Ohashi Y, Mukai H	4. 巻 94
2. 論文標題 Patient-Reported Outcome Results from the Open-Label Randomized Phase III SELECT BC Trial Evaluating First-Line S-1 Therapy for Metastatic Breast Cancer	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oncology	6. 最初と最後の頁 107-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000484142	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Watanabe T, Yagata H, Saito M, Okada H, Yajima T, Tamai N, Yoshida Y, Takayama T, Imai H, Nozawa K, Sangai T, Yoshimura A, Hasegawa Y, Yamaguchi T, Shimozuma K, Ohashi Y	4. 巻 14
2. 論文標題 A multicenter survey of temporal changes in chemotherapy-induced hair loss in breast cancer patients.	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0208118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Murasawa H, Sugiyama T, Matsuoka Y, Okabe T, Hino A, Tanaka N, Sugimoto M, Oyama M, Fujimoto K, Horie S, Noto S, Shimozuma K	4. 巻 -
2. 論文標題 Health utility and health related quality of life of Japanese prostate cancer patients according to progression status measured using EQ-5D-5L and FACT-P	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Qual Lif Res	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-019-02184-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akazawa M, Konomura K, Shiroywa T	4. 巻 21
2. 論文標題 Cost-Minimization Analysis of Deep-Brain Stimulation Using National Database of Japanese Health Insurance Claims	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Neuromodulation : Journal of the International Neuromodulation Society	6. 最初と最後の頁 548-552
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ner.12782	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akiyama N, Shiroywa T, Fukuda T, Murashima S, Hayashida K	4. 巻 13
2. 論文標題 Healthcare costs for the elderly in Japan: Analysis of medical care and long-term care claim records	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PLoS One	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1371/journal.pone.0190392	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Aoki T, Ota Y, Sasaki M, Aoyama K, Akiba T, Shirasugi Y, Naito M, Shiroiwa T	4. 巻 24
2. 論文標題 To what extent does the EQ-5D-3L correlate with the FACT-H&N of patients with oral cancer during the perioperative period?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Clin Oncol	6. 最初と最後の頁 350-358
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-018-1364-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hisayuki Ogura (a1), Shigekazu Komoto (a1), Takeru Shiroiwa (a2) and Takashi Fukuda	4. 巻 -
2. 論文標題 Exploring the Application of Cost-Effectiveness Evaluation in the Japanese National Health Insurance System	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Int J Technol Assess Health Care	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1017/s0266462319000060	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤信也	4. 巻 23
2. 論文標題 費用対効果以外の要素をいかに扱うべきか? -アブレイザル(総合的評価)に関する諸問題-	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 薬剤疫学	6. 最初と最後の頁 29-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3820/jjpe.23.29	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshikawa A, Saito S, Kondo M, Tsuyumu Y, Taira N, Shien T, Doihara H	4. 巻 6
2. 論文標題 The sexual lives of breast cancer patients: Coping with changes associated with treatment	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Clinical Nursing Studies	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下妻晃二郎	4. 巻 3
2. 論文標題 Future Topic がん診療のコスト原論 - 「コスト」を考慮した効率的ながん診療と医療倫理のバランス単著2017年7月Cancer Board(3巻2号)下妻 晃二郎75-90	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Cancer Board	6. 最初と最後の頁 75-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 下妻晃二郎	4. 巻 71
2. 論文標題 本人の希望への寄り添い - サービス提供体制についてのアウトカム評価の意義とあり方	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 健康保険	6. 最初と最後の頁 14-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shiroiwa T, Fukuda T, Shimozuma K, Mouri M, Hagiwara Y, Kawahara T, Ohsumi S, Hozumi Y, Sagara Y, Ohashi Y, Mukai H	4. 巻 17
2. 論文標題 Cost-effectiveness analysis of the introduction of S-1 therapy for first-line metastatic breast cancer treatment in Japan: results from the randomized phase III SELECT BC trial.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 BMC Cancer	6. 最初と最後の頁 773
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12885-017-3774-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hagiwara Y, Shiroiwa T, Shimozuma K, Kawahara T, Uemura Y, Watanabe T, Taira N, Fukuda T, Ohashi Y, Mukai H	4. 巻 36
2. 論文標題 Impact of Adverse Events on Health Utility and Health-Related Quality of Life in Patients Receiving First-Line Chemotherapy for Metastatic Breast Cancer: Results from the SELECT BC Study	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 PharmacoEconomics	6. 最初と最後の頁 215-223
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40273-017-0580-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Oritani K, Ohishi K, Okamoto S, Kirito K, Komatsu N, Tauchi T, Handa H, Saito S, Takenaka K, Shimoda K, Okada H, Amagasaki T, Wakase S, Shimozuma K, Akashi K	4. 巻 34
2. 論文標題 Effect of ruxolitinib therapy on the quality of life of Japanese patients with myelofibrosis.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Curr Med Res Opin	6. 最初と最後の頁 531-537
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/03007995.2017.1415874	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawahara T, Shimozuma K, Shiroiwa T, Hagiwara Y, Uemura Y, Watanabe T, Taira N, Fukuda T, Ohashi Y, Mukai H	4. 巻 94
2. 論文標題 Patient-Reported Outcome Results from the Open-Label Randomized Phase III SELECT BC Trial Evaluating First-Line S-1 Therapy for Metastatic Breast Cancer.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Oncology	6. 最初と最後の頁 107-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000484142.	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 下妻 晃二郎	4. 巻 98(4)
2. 論文標題 特集 医療経済学のススメ 医療における経済学の活用 医療技術評価 (HTA)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 治療	6. 最初と最後の頁 530-536
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Saiga M, Taira N, Kimata Y, Watanabe S, Mukai Y, Shimozuma K, Mizoo T, Nogami T, Iwamoto T, Motoki T, Shien T, Matsuoka J, Doihara H	4. 巻 24(2)
2. 論文標題 Development of a Japanese version of the BREAST-Q and the traditional psychometric test of the mastectomy module for the assessment of HRQOL and patient satisfaction following breast surgery.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Breast Cancer	6. 最初と最後の頁 288-298
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12282-016-0703-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shiroiwa T, Saito S, Shimozuma K, Kodama S, Noto S, Fukuda T	4. 巻 14(3)
2. 論文標題 Societal Preferences for Interventions with the Same Efficiency: Assessment and Application to Decision Making.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Appl Health Econ Health Policy	6. 最初と最後の頁 375-385
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40258-016-0236-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shiroiwa T, Ikeda S, Noto S, Igarashi A, Fukuda T, Saito S, Shimozuma K	4. 巻 19(5)
2. 論文標題 Comparison of Value Set Based on DCE and/or TTO Data: Scoring for EQ-5D-5L Health States in Japan.	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 Value Health	6. 最初と最後の頁 648-654
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jval.2016.03.1834	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Shiroiwa T, Fukuda T, Shimozuma K, Mouri M, Hagiwara Y, Doihara H, Akabane H, Kashiwaba M, Watanabe T, Ohashi Y, Mukai H	4. 巻 26(2)
2. 論文標題 Long-term health status as measured by EQ-5D among patients with metastatic breast cancer: comparison of first-line oral S-1 and taxane therapies in the randomized phase III SELECT BC trial.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Qual Life Res	6. 最初と最後の頁 443-453
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s11136-016-1388-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Oyama M, Sugiyama T, Nozawa M, Fujimoto K, Kishida T, Kimura G, Tokuda N, Hinotsu S, Shimozuma K, Akaza H, Ozono S	4. 巻 -
2. 論文標題 Efficacy and safety of sequential use of everolimus in Japanese patients with advanced renal cell carcinoma after failure of first-line treatment with vascular endothelial growth factor receptor tyrosine kinase inhibitor: a multicenter phase II clinical trial.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Jpn J Clin Oncol	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 盛次浩二、齋藤信也	4. 巻 32(1)
2. 論文標題 高齢者施設および在宅医療ケアにおける尿道留置カテーテルの取扱の現状と課題。	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本環境感染学会誌	6. 最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋信夫, 小林英樹, 中村哲浩, 丸尾芳光, 岩永暁史, 山本時生, 藤崎沙彩, 齋藤博文, 沖田哲美, 福永肇, 齋藤信也	4. 巻 71(3)
2. 論文標題 病院経営における事務職員の重要性について-国立病院における独法化以降事務職員数変化-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 医療	6. 最初と最後の頁 119-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 齋藤信也	4. 巻 62(12)
2. 論文標題 看護師の意思決定支援：文献にみる現状と課題 心不全患者の意思決定支援の特徴。	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 看護技術	6. 最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 T Shiroyiwa, T Fukuda, S Ikeda, T Takura, K Moriwaki	4. 巻 20(3)
2. 論文標題 Development of an Official Guideline for the Economic Evaluation of Drugs/Medical Devices in Japan	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Value Health	6. 最初と最後の頁 372-378
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計39件（うち招待講演 11件 / うち国際学会 16件）

1. 発表者名 Funagoshi M, Murasawa H, Shiroiwa T, Saito S, Shimozuma K
2. 発表標題 Relationship Between Partial Values and Scoring Scale for Each Criterion of the EVIDEM 10th Edition Core Model in Japan.
3. 学会等名 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR). Europe 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Murasawa H, Okabe T, Wakumoto Y, Sugiyama T, Tanaka N, Matsuoka Y, Noto S, Shimozuma K
2. 発表標題 Health-Related Quality of Life in Japanese Patients with Prostate Cancer Using EQ-5D-5L and FACT-P: Comparisons According to Treatment Type
3. 学会等名 ISPOR Asia Pacific 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Funagoshi M, Murasawa H, Shiroiwa T, Saito S, Shimozuma K
2. 発表標題 Importance of Criteria for Drug Reimbursement Decision- Making for Non-Life-Threatening Diseases
3. 学会等名 ISPOR Europe 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Takahashi M, Sawaki M, Hagiwara Y, Uemura Y, Kawahara T, Shimozuma K, Ohashi Y, Saito T, Baba S, Kobayashi K, Mukai H, Taira N
2. 発表標題 Analysis of cognitive function in elderly HER2-positive breast cancer patients receiving either trastuzumab monotherapy or trastuzumab plus chemotherapy as a postoperative adjuvant treatment: A cognitive function sub-study of a randomized, open-label, phase 3 clinical trial (RESPECT trial)
3. 学会等名 2018 San Antonio Breast Cancer Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kobayashi K, Taira N, Sawaki M, Sagawa N, Baba S, Saito T, Kawahara T, Hagiwara Y, Uemura Y, Shimozuma K, Ohashi Y, Mukai H
2. 発表標題 Patient-reported outcomes with trastuzumab monotherapy versus trastuzumab plus standard chemotherapy as a postoperative adjuvant therapy in HER2-positive elderly breast cancer patients (RESPECT): A randomized, open-label, phase 3 clinical trial
3. 学会等名 2018 San Antonio Breast Cancer Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yamashita T, Hattori M, Nakada T, Hayashi T, Kamei K, Tatsuya T, Nagao Y, Mase T, Wada M, Mizuno T, Shimozuma K, Iwata H, Yamaguchi T
2. 発表標題 Subjective and objective assessment of efficacy of frozen gloves and socks to prevent nab-paclitaxel-induced peripheral neuropathy in patients with breast cancer
3. 学会等名 2018 San Antonio Breast Cancer Symposium (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤信也
2. 発表標題 Slow code の実態とそれに対する医師の基本姿勢について
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会年次総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 齋藤信也
2. 発表標題 医療資源の配分問題 理論、基準、評価のつながりを論じる 我が国の医療政策への応用
3. 学会等名 第30回日本生命倫理学会年次総会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 岩垣博巳、齋藤信也
2. 発表標題 外科的侵襲と漢方
3. 学会等名 第69回日本東洋医学会学術総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 竹田祐馬、村澤秀樹、下妻晃二郎
2. 発表標題 前立腺癌骨転移患者に対するRadium-223の費用効果分析
3. 学会等名 第55回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下妻晃二郎
2. 発表標題 研究実践ワークショップ4 - QOL評価の現状と費用効果分析への応用 QOL/PRO評価の基本的な考え方
3. 学会等名 日本臨床疫学会第1回年次学術大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下妻晃二郎
2. 発表標題 パネルディスカッション10 「それぞれの癌」：医療費の高額化はおさえられるか 3. 効率的かつ公平な医療資源配分
3. 学会等名 第55回日本癌治療学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下妻晃二郎
2. 発表標題 シンポジウム2 QOL評価研究ことはじめ
3. 学会等名 第34回日本障害者歯科学会総会および学術大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Murasawa H, Matsuoka Y, Tanaka N, Takeda Y, Uchikawa S, Noto S, Shimozuma K
2. 発表標題 Factors contributing to the ceiling effect among patients with prostate cancer who were judged to have "full-health" by EQ-5D-5L
3. 学会等名 ISPOR 20th Annual European Congress（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Noto S, Igarashi A, Shiroyiwa T, Fukuda T, Ikeda S, Moriwaki K, Saito S, Shimozuma K, Ishida H, Kobayashi M
2. 発表標題 Reliability and validity of two proxy versions of EQ-5D-5L in Japan
3. 学会等名 ISPOR 20th Annual European Congress（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Funagoshi M, Murasawa H, Shimozuma K
2. 発表標題 Identification of important criteria for drug reimbursement decision-making and their relative importance
3. 学会等名 ISPOR 20th Annual European Congress（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 船越大、村澤秀樹、下妻晃二郎
2. 発表標題 薬剤の償還可否に関する評価基準の調査：一般、医師および薬剤師の選好
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第5回研究学術集会（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 村澤秀樹、下妻晃二郎
2. 発表標題 前立腺がん患者のQOL値に関する多施設共同研究
3. 学会等名 QOL/PRO研究会第5回学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山口三重子、下妻晃二郎、齋藤信也
2. 発表標題 臨床倫理コンサルタント技能測定尺度開発の試み
3. 学会等名 第29回日本生命倫理学会年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 下妻晃二郎
2. 発表標題 超高齢社会における高齢者治療の標準化 - HTAベースで考える -
3. 学会等名 日本薬学会第138年会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 杉山貴之、小山政史、野澤昌弘、藤本清秀、岸田 健、木村 剛、徳田倫章、樋之津史郎、下妻晃二郎、赤座英之、大園誠一郎
2. 発表標題 根治切除不能または転移性の腎細胞癌患者 に対する1st line TKI療法不応後の エベロリムスの有効性および安全性の検討ー多施設共同第 相試験
3. 学会等名 第104回日本泌尿器科学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 斎藤 毅, 向井 博文, 原 文堅, 松原 伸晃, 高野 利実, 朴 英進, 井本 滋, 渡辺 隆紀, 西村 令喜, 下妻 晃二郎, 大橋 靖雄
2. 発表標題 転移再発乳癌に対するタキサンとS-1の比較試験(SELECT-BC)のサブ解析と有害事象の経時的変化
3. 学会等名 第24回日本乳癌学会学術総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 下妻 晃二郎
2. 発表標題 シボゾウム13 抗癌剤の医療経済評価-医療現場や社会への応用
3. 学会等名 医療薬学フォーラム2016 第24回クリニアルファーマシーシンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Maeda S, Murasawa H, Funagoshi M, Takeda Y, Shimozuma K
2. 発表標題 A cost-effectiveness analysis of Guanfacine extended-release treatment in pediatric attention-deficit/hyperactivity disorder
3. 学会等名 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) 7th Asia-Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fukuda T, Igarashi A, Ishida H, Ikeda S, Saito S, Sakamaki H, Shimozuma K, Shiroiwa T, Takura T, Tomita N, Noto S, Fukuda H, Moriwaki K, Moriyama Y, Akazawa M
2. 発表標題 Economic evaluation guideline for pharmaceuticals and medical devices in Japan.
3. 学会等名 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) 7th Asia-Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Mieko YAMAGUCHI, Yuki KAWAMURA, Shinya SAITO, Kojiro SHIMOZUMA, Michele Eisemann SHIMIZU
2. 発表標題 The results of the Veterans Health Administration's Ethics Consultation Proficiency Assessment Tool survey in Japan
3. 学会等名 American Society of Bioethics and Humanities (ASBH) 18th Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Takuya Kawahara, Kojiro Shimozuma, Takeru Shiroiwa, Yasuhiro Hagiwara, Yukari Uemura, Takanori Watanabe, Takashi Fukuda, Yasuo Ohashi, Hirofumi Mukai
2. 発表標題 Responder analyses of patient-reported outcomes for evaluating the clinical significance of first-line S-1 over taxane therapy among patients with metastatic breast cancer: the open-label randomized phase III SELECT BC trial
3. 学会等名 23rd International Society for Quality of life Research (ISQOL) Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 杉山 貴之、下妻 晃二郎、小山 政史、舛森 直哉、松原 昭郎、松山 豪泰、神波 大己、西村 和郎、樋之津 史郎、赤座 英之、大園 誠一郎
2. 発表標題 根治切除不能または転移性の腎細胞癌患者に対するエペロリムス投与前後のQOL変化
3. 学会等名 第54回日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yasuhiro Hagiwara, KojiroShimozuma, TakeruShiroiwa, Takuya Kawahara, Yukari Uemura, TakanoriWatanabe, Naruto Taira, Takashi Fukuda, Yasuo Ohashi, Hirofumi Mukai
2. 発表標題 Impacts of Adverse Events on Health-related Quality of Life in Patients Receiving First-line Chemotherapy for Metastatic Breast Cancer: Results from Randomized Phase III SELECT BC study
3. 学会等名 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) 19th Annual European Congress (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 下妻 晃二郎
2. 発表標題 がん患者のQOL—どう評価し、どう臨床実践に生かすか—
3. 学会等名 第6回日本がんリハビリテーション研究会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 齋藤信也
2. 発表標題 緩和医療と費用対効果
3. 学会等名 第21回日本緩和医療学会学術大会 (招待講演)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 齋藤信也
2. 発表標題 試行的導入の折り返し地点：本格導入に向けたよりよい評価プロセスのありかたについて。「海外の再分析・評価プロセスについて」
3. 学会等名 国際医療経済・アウトカム研究学会 ISPOR日本部会2016年度シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 宮崎 雅史、高津 成子、岡 良成、松田 浩明、尾山 貴徳、吉田 龍一、桂 佑貴、能登 真一、齋藤 信也
2. 発表標題 EQ5D-5L を用いた維持透析患者のQOLの評価～費用対効果の検証～
3. 学会等名 第61回日本透析医学会学術集会・総会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 富樫理恵、長江弘子、岩城典子、酒井昌子、片山陽子、蒔田麻友子、齋藤信也
2. 発表標題 エンド・オブ・ライフケア実践における看護師の意思決定支援の現状と課題 慢性腎不全患者の意思決定に焦点を当てて
3. 学会等名 第18回日本在宅医学会第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 齋藤信也、長江弘子、岩城典子、高橋在也、片山陽子、酒井昌子
2. 発表標題 循環器疾患のエンドオブライフケアにおける看護師の意思決定支援 システマティックレビュー
3. 学会等名 第18回日本在宅医学会第21回日本在宅ケア学会学術集会合同大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Shinya Saito, Shinichi Noto, Masashi Miyazaki, Sigeko Takatsu, Yoshinari Oka, Hiroaki Matsuda
2. 発表標題 Health utility measured with EQ5D5L in Japanese patients undergoing hemodialysis.
3. 学会等名 International Society for Pharmacoeconomics and Outcomes Research (ISPOR) 7th Asia-Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 齋藤信也、川上由紀
2. 発表標題 看護師の離職とそれに影響する因子 - 特にコミットメント、エンゲイジメントに着目して
3. 学会等名 第54回日本医療・病院管理学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 齋藤信也
2. 発表標題 医療経済評価に基づく資源配分の倫理的課題. 「領域横断型の生命倫理プラットフォーム形成に向けて」
3. 学会等名 国際高等研究所2016年度第2回研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 吉川あゆみ、齋藤信也
2. 発表標題 看護師の看護補助者への業務の委譲についての研究
3. 学会等名 第30回日本看護研究学会中国・四国地方会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 監訳：久繁哲徳、橋本秀樹	4. 発行年 2017年
2. 出版社 篠原出版新社	5. 総ページ数 495
3. 書名 保健医療の経済評価	

1. 著者名 監修：園尾博司、編集：福田護、池田正、佐伯俊昭、鹿間直人	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金原出版株式会社	5. 総ページ数 160
3. 書名 これからの乳癌診療2017 - 2018	

1. 著者名 グレッグ・ボグナー、イワオ・ヒロセ 監訳 児玉聡	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 誰の健康が優先されるのか - 医療資源の倫理学	

1. 著者名 下妻 晃二郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 メディカルレビュー社	5. 総ページ数 70(59-59)
3. 書名 CANCER BOARD OF THE BREAST - patient-reported outcome measures (PROMS)	

1. 著者名 村澤秀樹、下妻 晃二郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 立命館大学	5. 総ページ数 259(249-259)
3. 書名 立命館高等教育研究 大人数生命・薬学系授業におけるグループディスカッションの実践	

1. 著者名 板井孝彦、加部一彦、櫻井浩子、門岡康弘、齋藤信也、加藤太喜子、野崎亜紀子、土屋貴志	4. 発行年 2016年
2. 出版社 山代印刷	5. 総ページ数 220(75-94)
3. 書名 「医学的無益性」と医療経済。医学的無益性と生命倫理	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>下妻 晃二郎&#160;&#160;Kojiro Shimozuma MD, PhD, Professor 立命館大学 生命科学部 生命医科学科 (医療政策・管理学) 教授 〒525-8577 滋賀県草津市野路東1-1-1 Phone & FAX: 077-561-2769 http://www.ritsumei.ac.jp/lifescience/bm/shimozuma/index.html</p> <p>同大学 総合科学技術研究機構 医療経済評価・意思決定支援ユニット(CHEERS)&#160;ユニット長〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町134 京都リサーチパーク2号館209号室http://www.ritsumei.ac.jp/research/center/cheers/</p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	齋藤 信也 (Saito Shinya) (10335599)	岡山大学・保健学研究科・教授 (15301)	
研究分担者	白岩 健 (Shiroiwa Takeru) (20583090)	国立保健医療科学院・保健医療経済評価研究センター・主任 研究員 (82602)	
研究分担者	村澤 秀樹 (Murasawa Hideki) (50770202)	立命館大学・生命科学部・助教 (34315)	